

環境マネジメント 3 カ年計画 トマト農家の持続的な農業推進



▲山口聡社長

カゴメは、2025 年のありたい姿を「食を通じて社会課題の解決に取り組み、持続的に成長できる強い企業」、長期ビジョンを「トマトの会社から野菜の会社に」と定め、農業から生産・加工・販売と一貫したバリューチェーンを持つ世界でもユニークな企業として、健康寿命の延伸、農業振興・地方創生、世界の食糧不足の問題に取り組んでいる。

近年の地球温暖化や海洋汚染による生態系への影響等、環境問題は世界的な喫緊の社会課題となっていることから、環境への取組みを企業の社会的責任として捉え、社会の要請を考慮し、環境パフォーマンスの改善や社会に貢献できる課題を盛り込んだ「環境マネジメント 3 カ年計画」(2019～2021 年度)を策定し、2019 年度からスタートした。環境マネジメントは、「地球温暖化防止」「水の保全」「生物多様性保全と持続的農業の推進」「資源の有効利用」「原料・商品の環境配慮」「しくみのレベルアップ」から構成され、各項目で 3 カ年の目標を定めている。

プラスチック問題に関しては、環境負荷の低減を目指して「カゴメ プラスチック方針」を策定している。具体的な目標として、2030 年までに紙容器飲料に添付しているプラスチックストローについて、石油から新たに作られるプラスチックの使用量ゼロを目指している。2021 年 2 月には、紙ストローを採用した季節限定「野菜生活 100」をオンライン限定で発売。また飲料 PET ボトルは、2030 年までにリサイクル素材又は植物由来

素材を 50% 以上使用することを目標としている。

食品ロス削減や物流・倉庫・小売などの流通関係者の負担軽減のために、20 年 10 月より、賞味期間が 360 日以上家庭用飲料商品（缶・PET ボトル）を対象として、賞味期限表示を「年月日」から「年月」に順次変更している。2030 年までに食品廃棄量を半減（2018 年比）させることを目標としており、今後も賞味期限表示の見直しを進めるとともに、賞味期間の延長についても取り組んで行く。

生物多様性保全に配慮した農業では、観光施設「カゴメ野菜生活ファーム富士見」に隣接する畑において、農業における生態系への負荷軽減に取り組み、多様な生物との共生を目指している。この畑は農業に役立つ生きものを畑へと呼びこむため、「竹筒マンション」や「石づみハウス」等を設置し、「生きものと農業の共生」を図ることで、持続可能な農業の実現を目指している。

国内トマト農家の持続的な農業推進に関しては、今年 9 月にカゴメといわみざわ農業協同組合、ヤンマーアグリジャパンの 3 社は、いわみざわ管轄内における加工用トマト産地の拡大推進を目的とした連携協定を締結した。この協定では、ヤンマーが中心となり、収穫機のメンテナンスなど農業機械の稼働安定化をサポート。今後、3 者の連携により加工用トマトの産地拡大を更に推進し、地域農業の振興と発展に貢献して行く。